

(5) N-4

a) N-4.1

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

N-4.1 のマント群落・ソデ群落の生育・形成状況を表 7.2.3-34～表 7.2.3-37、
図 7.2.3-33 に示した。

無障害物帯縁のマント群落・ソデ群落の過年度からの植生の推移をみると、各
地点ともに過年度において、評価図書に示す環境保全措置のとおり、林縁部にリ
ュウキュウチクの植栽を実施し、マント群落・ソデ群落が形成された。今年度
においても樹高、植被率とも維持されていた。以下に各調査地点の植生状況について
整理した。

北側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 2.0m、植被率 80%、出現種 25
～27 種であった。今年度調査においては、草丈 2.0m、植被率 80～90%、出現種 18
～21 種であった。平成 27 年度の段階では、草本類のススキが優占するほか、リ
ュウキュウバライチゴ、ホシダ等が生育していたが、今年度はススキが優占する
ほか、コゴメスゲも高い被度を示した。

南東側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 2.0m、植被率 100%、出現種
23～25 種であった。今年度調査においては、低木層と草本層に分化し、低木層が
高さ 2.5m、植被率 5%、シロダモ 1 種が出現した。草本層が草丈 1.8m、植被率 95%、
出現種 23～25 種であった。平成 27 年度の段階では、草本類のススキが優占して
おり、木本類ではシロダモ等が生育していたが、今年度は木本類のシロダモが生
長し、低木層となったほか、草本層はススキが優占していた。

南側は、一時的に低木層と草本層に分化がみられたが、過年度の調査(平成 27
年度)には、草本層の 1 階層に取り込まれ、草丈 2.0m、植被率 90～95%、出現種
37 種であった。今年度調査においては、草丈 2.0m、植被率 90～95%、出現種 30
～33 種であった。平成 27 年度の段階では、草本類のススキやコゴメスゲが優占
しており、木本類ではフカノキやギイマが生育していたが、今年度は草本類のス
スキやコゴメスゲが優占するほか、木本類ではホルトノキ、スタジイの被度が高
くなっていた。

西側は、昨年度の調査(平成 27 年度)では、低木層が高さ 3.5m、植被率 30%、出
現種 4 種、草本層が高さ 1.7m、植被率 70%、出現種 23～24 種であった。今年度調
査においては、低木層が高さ 3.5m、植被率 40～70%、出現種 5～6 種、草本層が高
さ 1.7m、植被率 70～80%、出現種 19～25 種であった。平成 27 年度の段階では、
低木層におけるホソバムクイヌビワやホルトノキ等の木本類の生育や階層分化の
状況から他の地点に比べ、樹林地への遷移(マント群落の形成)が進行しているも
のと考えられたが、今年度も同様に、低木層が生長し、シマイズセンリョウ、ヒ
カゲヘゴの被度が高くなり、樹林地への遷移(マント群落の形成)が進行していた。

表 7.2.3-35(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1:南東側)

調査年月日	南東側																							
	H23年度				H24年度				H25年度				H26年度				H27年度		H28年度		H29年度			
	6/10	9/27	1/10	5/30	9/27	11/13	1/21	4/24	9/26	11/15	1/17	6/4	8/30	11/14	1/27	6/10	9/4	冬季	春季	夏季	6/2	9/1	11/29	1/30
海拔 (m)	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172	172				172	172	172	172
方位	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S				S	S	S	S
傾斜角度 (°)	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45				45	45	45	45
調査区面積 (m ²)	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5				4.5	4.5	4.5	4.5
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				2.5	2.5	2.5	2.5
低木層(S)の被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				5	5	5	5
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				1	1	1	1
草本層(H)の高さ (m)	0.25	0.6	0.7	1.2	1.2	1.2	1.5	1.7	1.7	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0				1.8	1.8	1.8	1.8
草本層(H)の被率 (%)	10	70	80	95	95	95	95	95	95	95	100	100	100	100	100	100	100				95	95	95	85
草本層(H)の出現数 (種)	19	26	28	20	25	25	18	23	18	16	18	21	19	21	22	23	25				24	23	25	23
出現種数 (種)	19	26	28	20	25	25	18	23	18	16	18	21	19	21	22	23	25				24	23	25	23
草本層(H)																								
H.50 ナワシロイチゴ	+		1-2	1-2	+2	+2																		
H.51 モクダチバナ			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+							
H.52 サネカズラ																								
H.53 ヘクソカズラ									+	+	+	+	+	+	+	+	+				+			+
H.54 イスノキ																								
H.55 ヤマゲウ																								
H.56 トキワカモメツル																								
H.57 タイミンタチバナ								+													+	+	+	
H.58 コハンモチ																								
H.59 オオバギ																								
H.60 シシアケ																						+	+	+
H.61 クロミノオキナワズメウリ																								
H.62 カタバシ				+	+																			
H.63 シマルナシ										+														
H.64 ササクサ																								
H.65 オニタビラコ																								
H.66 リュウキュウマツ			+	+																				+
H.67 コシダ										+														+
H.68 タカサゴウゾリナ																						+	+	+
H.69 ノボタン																								
H.70 ナガバハリフタバ																								
H.71 ウスベニガナ																								
H.72 ヤンバルアカメガシワ																								
H.73 マルバタケハギ																								
H.74 キダチコミカンソウ																								
H.75 ハナガサノキ															+									
H.76 ササバサンキライ																								
H.77 ナガバカニクサ																								
H.78 イタビカズラ																								+
H.79 モチノキ																								
H.80																								
H.81 ソメモノカズラ																								
H.82 カラスキハサンキライ																								
H.83 ヤブニッケイ																								

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

注) 平成27年度秋季から平成28年度冬季まで欠測。

表 7.2.3-36(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-4.1:南側)

調査年月日	南側																											
	H23年度				H24年度				H25年度				H26年度				H27年度		H28年度		H29年度							
	6/10	9/27	1/10	5/30	9/27	11/13	1/21	4/24	9/26	11/15	1/17	6/4	8/30	11/14	1/27	6/10	9/4	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	6/2	9/1	11/29	1/30	
海拔 (m)	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174								174	174	174	174
方位	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE	SE								SE	SE	SE	SE
傾斜角度 (°)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15								15	15	15	15
調査区面積 (m ²)	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5								4.5	4.5	4.5	4.5
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.5	-	-	-	-	-	-	-	-								-	-	-	-
低木層(S)の被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-								-	-	-	-
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-								-	-	-	-
草本層(H)の高さ (m)	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	1.2	1.2	1.5	1.5	1.7	1.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0								2.0	2.0	2.0	2.0
草本層(H)の被率 (%)	20	40	40	40	40	40	40	60	70	90	90	90	95	90	90	90	90								95	95	95	90
草本層(H)の出現数 (種)	30	39	35	37	33	37	34	34	35	35	36	37	36	39	36	37	37								32	33	30	30
出現種数 (種)	30	39	35	37	33	37	35	36	35	35	36	37	36	39	36	37	37								32	33	30	30
草本層(H)																												
H.50 ナワシロイチゴ																												
H.51 モクダチバナ																												
H.52 サネカズラ														*	*	*	*								+	+	+	
H.53 ヘクソカズラ																									+	+		
H.54 イスノキ																												
H.55 ヤマゲウ																												
H.56 トキワカモツル		*		*		*						*																
H.57 タイミンタチバナ																												
H.58 コハンモチ							+	+	+				+	+	+	+	+								+			
H.59 オオバギ		*	*																									
H.60 シシアクチ		*																										
H.61 クロミノキナワズメウリ																												
H.62 カタバミ																												
H.63 シマルナシ																												
H.64 ササクサ		+	+	+	+																							
H.65 オニタビラコ		*																										
H.66 リュウキュウマツ																												
H.67 コシダ																												
H.68 タカサゴウゾリナ		*																										
H.69 ノボタン																												
H.70 ナガバハリフタバ																												
H.71 ウスベニガナ																												
H.72 ヤンバルアカメガシワ																												
H.73 マルバタケハギ																												
H.74 キダチコミカンソウ		*																										
H.75 ハナガサノキ																												
H.76 ササバサンキライ																												
H.77 ナガバカニクサ																												
H.78 イタビカズラ																												
H.79 モチノキ						*																						
H.80																												
H.81 ソメモノカズラ																												
H.82 カラスキハサンキライ																												
H.83 ヤブニッケイ																												

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%, 4: 被度が50~75%, 3: 被度が25~50%, 2: 被度が10~25%, 1: 被度が10%未満, +: 被度が1%以下
 群度→5: かへつ状に分布, 4: かへつに穴が開いた状態, 3: 大きな班を形成あるいはまだら状, 2: 班状に分布, 1: 小群状あるいは単独に分布

注) 平成27年度秋季から平成28年度冬季まで欠測。

【N-4.1：北側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：南東側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：南側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：西側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

図 7.2.3-33 マント群落・ソデ群落の植生状況(N-4.1)

(b) 無障害物帯形成地の植生

N-4.1 の無障害物帯の生育・形成状況を表 7.2.3-38～表 7.2.3-41、図 7.2.3-34 に示した。

無障害物帯縁の植生の推移をみると、無障害物帯は樹木の伐採が行われた後、埋土種子からの発芽や周辺からの草本類の侵入による植被率の増加がみられ、植生の回復が進んでいることを確認した。

評価図書においては、無障害物帯は早期緑化を行うこととしており、その環境保全措置を実施できたと考えられる。以下に各調査地点の植生状況について整理した。

北側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 1.5～1.8m、植被率 80%、出現種 20～21 種であった。今年度調査においては、草丈 0.3～0.5m、植被率 80～95%、出現種 14～15 種であった。草刈りの影響から、高さが低下し、ハイシロノセンダングサが優占するほか、コゴメスゲ、ホシダも高い被度を示した。

南東側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 1.8～2.0m、植被率 95%、出現種 21～22 種であった。今年度調査においては、草丈 1.8m、植被率 95～100%、出現種 15～19 種であった。今年度は、草本類のススキが優占するほか、ホシダ、コゴメスゲ等が生育していた。

南側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 1.5m、植被率 100%、出現種 20 種であった。今年度調査においては、草丈 1.5m、植被率 80～90%、出現種 16～21 種であった。今年度は、草本類のススキが優占するほか、コゴメスゲ等が生育するほか、木本類のシロダモ、タブノキの被度も増加していた。

西側は、過年度の調査(平成 27 年度)では、草丈 0.5～0.8m、植被率 100%、出現種 6～9 種であった。今年度調査においては、草丈 0.8m、植被率 95～100%、出現種 6～13 種であった。今年度は草本類のチガヤが優占するほか、ススキ、アメリカハマグルマ等が生育していた。

【N-4.1：北側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：南東側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：南側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

【N-4.1：西側】



平成 23 年 6 月 10 日（過年度：初回）



平成 30 年 1 月 30 日

図 7.2.3-34 無障害物帯形成地の植生状況(N-4.1)